

Wilderness Medical Associates International (WMAI)

「野外・災害救急法コース」とは

WMAI の野外災害救急法コースは 1980 年代初頭に救命医師を中心とする野外救助活動の専門家グループにより北米で開発され、現在では世界中で年間 8,000 人以上の方々に受講して頂いております。一般社団法人ウィルダネス メディカル アソシエイツ ジャパン、通称 WMAJ は北米の WMAI の公式な日本支局として資格発行を行っています。

インストラクターは医療資格を持ち、また山岳ガイドやレスキュー隊としての経験を持つ「質の高さ」が特徴です。カリキュラムは「ウィルダネス状況下（医療体系への引き継ぎや必要な処置を受けるまでに長時間を要する）」で発生する傷病の判断と処置、経過観察や看護、過酷な自然環境下での考え方などを体系的にまとめた内容となります。座学を通じて頭で理論的に理解し、次いで実技を通じ体で覚える学習スタイルも特徴の一つです。

国内で開催中のコースはベーシックレベルから医療従事者限定レベルまで 5 種類ご用意しております。全てのコースには共通して以下の内容が含まれます；

- ① 一般原則（人体構造・救助での考え方・法律的な枠組み）
- ② 生命を支える 3 つの重要器官（各器官の仕組み、起こり得る傷病、処置方法）
- ③ 傷病者評価システム（包括的で系統的な傷病の判断方法）
- ④ 傷病のリスト化（今起こっている傷病と後に起こり得る傷病、環境的な問題）
- ⑤ Critical Thinking（分析的思考）に基づく行動計画
- ⑥ ウィルダネス状況下医療プロトコル

北アメリカでの実績としてはアメリカ山岳ガイド協会（AMGA）やカナダ山岳ガイド連盟（ACMG）の必須資格として位置付けられております。日本国内では長野県知事認定「信州登山案内人資格」制度、北海道知事認定「アウトドア資格」制度、東京都「自然保護指導員」、国土交通省と環境省が主任省である「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」、北海道教育大学「アウトドアライフ専攻」等において必修救急法の一つとして指定されております。

その他に、南阿蘇村観光 PR 事業部実行委員会、御蔵島観光協会、学校法人「屋久島おおぞら高等学校」、公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会、株式会社アウトドアサポートシステム、屋久島ガイド連絡協議会、有限会社イングリッシュアドベンチャー、とっとり因幡グリーンツーリズム推進協議会、特定非営利法人飛騨小坂 200 滝、特定非営利活動法人 NPO さんじょう、(独) 国立赤城青少年交流の家、くにびき自然学校、株式会社キャニオンズ、NPO 法人森のこだま、特定非営利活動法人体験学習ネットワーク、公益財団法人キープ協会、生駒ランニングクラブ、只見町観光まちづくり協会等では定期的にコースを招致開催して頂いております。

その他、全国各所で WMAJ 主催の公募型コース開催も開催中です。

Wilderness First Aid (WFA) ～ベーシックレベル (20時間)

座学と実技で構成されます。100%の出席、筆記と実技のテストにて80%以上のスコアが必要とされ、合格者へは3年間有効（国際基準）のWFA資格証が発行されます。更新には3年間以内に同コースの受講、合格が必要となります。基礎的なコースではありますが、カリキュラムは野外で起こり得る傷病を広くカバーします。コースは全て北米規格ですが国内での整合性が保たれております。例えばCPR（一次救命処置）は日本赤十字社や消防署と共通し、アメリカ心臓学会（AHA）のガイドラインをベースに構成しております。WFAコースは幅広い層を対象とし、受講者には趣味でアウトドアをする方々、仕事で自然や防災に携わる方々、公務員、医療従事者、プロガイド等が見受けられます。

Wilderness Advanced First Aid (WAFA) ～アドバンスレベル (40 時間)

座学と実技で構成されます。カリキュラムは WFA と比べると、共通項目ではその理解がより深く掘り下げられ、また新たな項目も追加され、ウィルダネス状況下で救助者に求められる「Critical Thinking」の幅が広がります。実技では救助者 2 名で救助に向かうことを基準とした実技練習が増え、また小規模グループ救助シミュレーションも行われます。100%の出席、筆記と実技のテストにて 80%以上のスコアが必要とされ、合格者へは 3 年間有効（国際基準）の WAFA 資格証が発行されます。更新には 3 年間以内の同コースの受講、合格が必要となります。WAFA はより厳しい自然環境や被災時の行動を必要とする方々を対象としたコースであり、仕事として野外や災害に携わる方々の受講が多く見受けられます。WAFA は Wilderness First Responder の受講条件となっております。

Wilderness First Responder (WFR) ～プロフェッショナルレベル (40 時間)

WAFA 資格保持者だけが受講が可能なコースであり、座学と実技で構成されます。WFR は野外に従事するプロフェッショナルに必要とされる全ての要素をカバーします。カリキュラムへは WAFA と比べると、共通項目ではその理解がさらに深く掘り下げられ、プロフェッショナルに求められる新たな項目が多く追加されます。ウィルダネス状況下で救助者に求められる「Critical Thinking」の幅が広がることで理論的な深みを持ちます。小規模グループ救助シミュレーションが増え、トリアージを含むグループ救助理論、脊椎損傷者のバックボードへの固定と搬送技術、搬送を伴う大規模グループ救助の総合演習が新たに追加されます。100%の出席、筆記と実技のテストにて 80%以上のスコアが必要とされ、合格者へは 3 年間有効（国際基準）の WFR 資格証が発行されます。更新には 3 年間以内の同コースの受講と合格が必要となります。

Wilderness Emergency Medical Technician (WEMT) ～救命士レベル (5 日間)

救急救命士の国家資格保持者（他の医療従事者も参加は可能）を対象にしたコースであり、座学と実技で構成されます。WEMT は僻地環境や慣例医療に従ってはいは対処できないような状況下で起こり得る様々な困難を想定しています。他の WMAI プログラムと同様に WEMAT コースは、膨大な臨床経験と危険で困難な野外現場での医療ケア提供の現実とのバランスの上に成り立ち、また最良の科学の最善の応用法を軸に展開されていきます。100%の出席、宿題、小テスト、各実技実習における優秀な点数、また最終筆記テストで 80 点以上が必要とされ、合格者へは 3 年間有効（国際基準）の WEMT 資格証が発行されます。更新には 3 年間以内の同コースの受講と合格が必要となります。

* 資格発行には救急救命士資格を保持していることが条件となります

Wilderness Advanced Life Support (WALS) ～医師レベル (5 日間)

医師（研修医、救急救命士、救急に関わる看護師も参加は可能）を対象にしたトレーニングコースです。受講者の多くは、救助活動、都市部での災害や遠隔地にて医療サービスに関わる医師などです。カリキュラムの中心はウィルダネス状況下でも有益となる二次救命処置に置かれています。一般の方を対象とした他の WMA コースと比較すると医療技術の現場での応用、革新的なアイデアや受講者間でのディスカッションに重きが置かれます。100%の出席、宿題、小テスト、各実技実習における優秀な点数、また最終筆記テストで 80 点以上が必要とされ、合格者へは 3 年間有効（国際基準）の WALS 資格証が発行されます。更新には 3 年間以内の同コースの受講と合格が必要となります。